

1. 医学部の沿革

明治3年（1870年）

- 4月 岡山藩は備前国上道郡門田村操山の麓（今の東山公園）に医学館を設置し、陰暦5月25日（陽暦6月23日）より医学教育を始めた。学科は解剖学、人身窮理学、薬剂学、病理学、内科学、繃帯学、外科学、眼科学、産科学、中毒学、翻訳の11科目であった。
- 6月 オランダ軍医ロイトル(**Franciscus Johannes Antonius de Ruijter**)を医学館教師に招聘した。医学館に隣接して岡山藩医学館大病院を設け、患者の治療を始めた。

明治4年（1871年）

- 7月 オランダ人教師ロイトルが辞任した。
岡山中之町（現岡山市表町1丁目）に岡山藩医学館小病院を併設した。

明治5年（1872年）

- 1月 医学館を医学所と改称した。
- 2月 医学所及び大病院を閉鎖し、小病院のみとした。
- 4月 医学所、大病院を再興し、生田安宅が総括となった。
- 7月 岡山中之町に医学所と大病院を移転し、同小病院を合併して病院と称した。病院内に医学所（医学教場とも称す）を設置した。

明治6年（1873年）

- 8月 病院を岡山栄町（現岡山市表町2丁目）に移転した。
- 11月 岡山県病院として文部省の許可を得て医学の講義を開始した。生田安宅が病院治療方兼教授となった。

明治8年（1875年）

- 8月 米人ワーレス・テイラー (**Wallace Taylor**)を招聘した（12月に辞任）。
初めて病院長制がつくられ、生田安宅が初代病院長に就任した。

明治9年（1876年）

- 4月 岡山県病院を岡山県公立病院と改称し、医学教場をその附属とした。
- 6月 病院長に若栗章が就任した。

明治10年（1877年）

- 石坂堅壮（医学館設立時の教授、当時倉敷在）、肝臓ジストマを発見した。
- 1月 八浜支病院を設置した。
- 7月 真島支病院を設置した。
- 9月 八浜支病院を廃止した。

明治12年（1879年）

- 3月 岡山県公立病院を岡山県病院と改称した。栄町から弓之町（現岡山市弓之町）に移転した。
- 4月 米人宣教医師ベリー(**John C. Berry**)が医学顧問となり、診療に従事した（明治17年3月に辞任）。

10月 清野勇が病院長兼医学教頭となった。医学教育近代化を推進した。

明治13年（1880年）

- 1月 真島支病院を廃止した。

医学部の沿革

- 3月 県病院、医学教場を岡山区弓之町旧県庁跡へ改築移転した。
- 9月 医学教場は病院より分離し、岡山县医学校として独立した。菅之芳が学校長兼副病院長に就任した。病院長は清野勇が続任した。
- 明治 15 年 (1882 年)
- 4月 東大医学部卒業生に続き、岡山县医学校卒業生は、内務省の試験を受けることなく開業免状が交付されることになった。
- 明治 16 年 (1883 年)
- 8月 甲種医学校の許可を受け、西日本最大の医育機関となった。甲種医学校（千葉、愛知、金沢、大阪、三重、神戸、和歌山、岡山、広島、長崎）
- 明治 17 年 (1884 年)
- 5月 校舎を岡山城内西丸（元内山下小学校）に移転した。
- 6月 岡山县医学校第一回卒業生（11 人）を出した。
- 明治 18 年 (1885 年)
- 8月 明治天皇が岡山县医学校に行幸された。
- 明治 19 年 (1886 年)
- 4月 全国を 5 区に分割し、各区に 1 つの高等中学校を設置することとなり、第 3 区の高等中学校の本部が京都に置かれ、岡山は第 3 区に属した。
- 明治 20 年 (1887 年)
- 8月 各高等中学校に医学部が設置されることになり、第一を千葉、第二を仙台、第三を岡山、第四を金沢に設置、次いで第五を長崎に置くことになった。
- 9月 県医学校生であった石井十次が孤児教育会（後の岡山孤児院）を設立した。
- 明治 21 年 (1888 年)
- 3月 岡山县医学校長菅之芳が第三高等中学校医学部長に任命され、岡山县医学校を廃止した。
- 4月 第三高等中学校医学部を開設した。校舎は旧岡山县医学校舎で、生徒は岡山县医学校生徒と各府県の旧医学校生徒を引き継いだ。学科目は英語、動物学、植物学、物理学、化学、解剖学、組織学、生理学、薬物学、病理学、外科病理学、内科学、外科学、眼科学、産科婦人科学、裁判医学、衛生学、体操の 18 科目であった。すべての臨床講義と診療の実習は、岡山县病院で行った。
- 明治 22 年 (1889 年)
- 2月 岡山医学会の最初の講演会を開催した。（→12 月 「岡山医学会雑誌」第一号を刊行。）
- 5月 岡山内山下（現日本銀行および旧日本銀行にわたる電車道に面した一帯）に第三高等中学校医学部校舎の建築を開始した。
- 明治 23 年 (1890 年)
- 2月 第三高等中学校医学部に薬学科を附設した。同科の学科目は英語、動物学、植物学、鉱物学、物理学、化学、分析、生理学、製薬学、調剤学、薬局方、体操の 12 科目であった。
- 7月 医学部構内に病院、医学部校舎が竣工した。
- 明治 24 年 (1891 年)
- 7月 内山下に岡山县病院が竣工した。
- 明治 26 年 (1893 年)
- 9月 医科と薬学科の学科目中の英語を外国語と改め、裁判医学を法医学と改めた。
- 明治 27 年 (1894 年)
- 6月 高等学校令が布かれ、9 月 11 日から第三高等中学校医学部を第三高等学校医学部に改称した。附設薬学科を廃止した。
- 明治 28 年 (1895 年)

8月 卒業生は医学得業士と称することができ、元第三高等学校校医学部卒業生は学力検定の上、得業士と称することができるよう規定した。

明治 34 年 (1901 年)

4月 第一、第二、第三、第四、第五高等学校医学部はそれぞれ千葉、仙台、岡山、金沢、長崎医学専門学校となった。

6月 菅之芳を校長(勅任官)に任命した。

明治 37 年 (1904 年)

5月 岡山医学専門学校教授(病理学) 桂田富士郎が日本住血吸虫を発見した。

明治 40 年 (1907 年)

泰佐八郎(明治 28 年第三高等学校校医学部卒業)がベルリンのコッホ研究所に留学した(後にエルリッヒと共にサルバルサンを発見した。昭和 8 年学士院会員)。

大正元年 (1912 年)

11月 桂田富士郎教授が休職を命ぜられた。復職を要求して学生大会が開催され、医専紛争が始まった。

大正 2 年 (1913 年)

6月 菅校長が辞表を提出する事により紛争は終結した。

7月 筒井八百珠(千葉医学専門学校教授)が後任として着任した。

上坂熊勝教授が「脳神経起首の研究」により医学関係ではじめて学士院恩賜賞を受賞した。

大正 6 年 (1917 年)

1月 旧御津郡鹿田村に岡山医学専門学校校舎と岡山県病院建築を着工した(大正 10 年竣工)。

大正 7 年 (1918 年)

5月 桂田富士郎、京大教授藤浪鑑と共に「日本住血吸虫に関する研究」で帝国学士院賞を授与した。

大正 10 年 (1921 年)

4月 鹿田地区に新築された岡山県病院が文部省に移管され、岡山医学専門学校附属医院となった。

10月 医学部正門横の門衛所が竣工した。

大正 11 年 (1922 年)

3月 岡山医学専門学校を廃止した。

4月 岡山医科大学を設置し、教授藤田秀太郎を初代の医科大学長に任命した。

学科目は、解剖学、生理学、医化学、細菌学、薬物学、病理学、衛生学、法医学、内科学、外科学、産科婦人科学、皮膚科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、小児科学、精神病学の 16 科目であった。千葉、新潟、金沢、長崎も医科大学として発足した。

医科大学の設置に伴い、病院を岡山医科大学附属医院に改称した。

大正 15 年 (1926 年)

3月 岡山医科大学第 1 回卒業式を挙行し、23 名の卒業生を送った。

9月 医学部附属図書館を設置した。

昭和 3 年 (1928 年)

12月 欧文誌 Arbeiten aus der Medizinischen Universität zu Okayama (後の Acta Medica Okayama) を創刊した。

昭和 6 年 (1931 年)

4月 混合病棟が竣工した。

昭和 7 年 (1932 年)

医学部の沿革

3月 生化学研究棟・講堂が竣工した。

5月 岡山医学同窓会を創立した。

12月 岡山医学同窓会報を創刊した。

昭和8年(1933年)

3月 栄養学研究棟が竣工した。

昭和13年(1938年)

5月 生化学清水多栄教授が「胆汁酸の化学と生理」で帝国学士院賞を受賞した。

昭和14年(1939年)

5月 臨時附属医学専門部を設置した。

6月 学旗制定式を行った。

7月 鳥取県東伯郡三朝村に三朝温泉療養所を設置した。

昭和17年(1942年)

5月 岡山医科大学創立20周年記念式典を挙行了た。

7月 教授の定年を60歳とした。

昭和18年(1943年)

1月 三朝に放射能泉研究所を開設し、三朝温泉療養所を附属医院とした。

10月 結城貞昭奨学賞(現岡山医学会賞結城賞)を設けた。

昭和19年(1944年)

4月 臨時医学専門部を医学専門部に改めた。

6月 岡山大空襲(29日)を受け、大学内の木造建築の多くを焼失した。

昭和21年(1946年)

3月 教授の定年を65歳とした。

8月 医学実地修練(インターン)制度を開始した。

昭和22年(1947年)

4月 附属医学専門部の修業年限を5年に延長した。

昭和24年(1949年)

5月 国立学校設置法が公布され、岡山大学の学部組織は法文・教育・理・農・医の5学部とし、岡山医科大学は岡山医科大学附属専門部と共に岡山大学に包括され、岡山大学医学部となり、医学部附属の教育研究施設として、附属病院・同三朝分院・同金光分院・同本島分院を設置した。医学部附属病院に12診療科(第一内科、第二内科、第一外科、第二外科、産婦人科、皮膚・泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、精神科、放射線科、歯科)を設置した。

放射能泉研究所を岡山大学温泉研究所として附置した。

6月 第一回入試を実施した(2年の課程修了後に改めて選抜入学させる制度)。

林道倫教授を初代岡山大学長、遠藤中節教授を初代医学部長、根岸博教授を附属病院長に任命した。

昭和25年(1950年)

4月 旧制医科大学最後の入学者を受け入れた(→昭和29年3月25日に卒業)。

開設講座(括弧内は講座数):解剖学(3)、生理学(1)、生化学(1)、細菌学(1)、薬理学(1)、病理学(2)、衛生学(1)、法医学(1)、内科学(2)、外科学(2)、産科学婦人科学(1)、皮膚泌尿器科学(1)、眼科学(1)、耳鼻咽喉科学(1)、小児科学(1)、精神病学(1)、放射線科学(1)、齒科学(1)、温泉内科学(1)、温泉化学(1)であった。解剖学第三講座を寄生虫学に転用した。

11月 生化学教授清水多栄が日本学士院会員に選任された。

昭和26年(1951年)

3月 岡山大学放射能泉研究所を温泉研究所に改称した。

- 附属病院に三朝分院、金光分院及び本島分院を設置した。
- 昭和 27 年（1952 年）
- 3 月 岡山医科大学附属専門部を廃止した。
- 昭和 29 年（1954 年）
- 3 月 岡山医科大学最後の卒業証書授与式を挙行了した。
- 4 月 整形外科科学・生理学（第二）及び公衆衛生学を新設した。
- 昭和 30 年（1955 年）
- 4 月 医学部の修業年限が 4 年から 6 年となり、2 年の進学課程と 4 年の専門課程に分けられた。岡山大学に大学院を設置し、医学研究科の課程を定めた。
- 7 月 森永砒素ミルク事件が発生し、岡山大学関係者により原因を究明した。
附属学校として助産婦学校を設置した。
- 昭和 32 年（1957 年）
- 3 月 基礎医学研究棟第一期工事が竣工した。
- 4 月 附属学校として診療エックス線技師学校を設置した。
金光分院を廃止した。
- 昭和 33 年（1958 年）
- 新医学教育課程（いわゆる岡山方式。少人数臨床教育）を開始した。
- 4 月 附属病院の産婦人科を産科婦人科に、精神科を精神科神経科に改称した。
- 昭和 34 年（1959 年）
- 3 月 新制大学院の課程修了により初めて学位を授与した。
- 昭和 35 年（1960 年）
- 3 月 岡山医科大学を廃止した。（旧学位制度廃止）
- 4 月 附属癌源研究施設を設置し、病理研究部門を設置した。
- 昭和 36 年（1961 年）
- 4 月 皮膚泌尿器科学講座が皮膚科学講座と泌尿器科学講座に分離した。
- 6 月 附属病院に中央検査部、中央手術部、中央材料部、中央物療部を設置した。
- 昭和 37 年（1962 年）
- 4 月 本島分院を本島分室と改称した。
附属病院に中央麻酔部と共同実験室を設置した。
- 7 月 附属癌源研究施設に代謝研究部門を増設した。
- 昭和 38 年（1963 年）林原賞を設けた。
- 昭和 39 年（1964 年）
- 3 月 基礎医学研究棟第一期工事が竣工した。
- 4 月 寄生虫学講座を設置した。
歯科学講座を口腔外科学講座と改称した。
附属学校として衛生検査技師学校を設置した。
- 5 月 耳鼻咽喉科高原滋夫教授が「無カタラーゼ血液症の発見とその研究」で学士院賞を受賞した。
- 6 月 解剖実習棟が竣工した。
- 昭和 40 年（1965 年）
- 4 月 麻酔学講座を設置した。
解剖学第三講座を再設置した。
癌源研究施設ウイルス部門を増設した。
三朝分院を官制化した。
- 5 月 内科学山岡憲二元教授が「血色素並びに胆汁色素の研究」で学士院賞を受賞した。
- 昭和 41 年（1966 年）

医学部の沿革

4月 脳神経外科学講座を設置した。

昭和42年（1967年）

3月 医学図書館が竣工した。

4月 内科学第三講座を設置した。

5月 温泉研究所にリハビリテーション医学部門を設置した。

12月 附属病院三朝分院本館が竣工した。

昭和43年（1968年）

3月 基礎医学研究棟第二期工事が竣工した。

4月 附属病院三朝分院にリハビリテーション施設を設置した。

5月 医師実地修練（インターン）制度を廃止した。

7月 附属癌源研究施設の代謝研究部門を生化学研究部門に改称した。

昭和44年（1969年）

1月 学生が「5項目」を要求して学園紛争が勃発した。医学部本館の一部（現医学部基礎医学棟共同実験室付近）を全共闘学生が封鎖占拠した。

3月 体育館が竣工した。

4月 薬学科を設置した。

附属脳代謝研究施設を設置し、病態生化学部門を新設した。

診療エックス線技師学校を診療放射線技師学校（三年制）に改めた。

9月 医学部に機動隊が入り、封鎖を解いた。授業を再開した。

12月 創立100周年事業として武道場が竣工した。附属病院西病棟が竣工した。

昭和45年（1970年）

4月 薬学科に薬化学、生理化学及び生薬学講座を配置した。

附属病院に集中治療部、人工腎臓室を設置した。

9月 百周年記念会館が竣工した。

10月 医学部創立百周年記念式典を挙行了した。

昭和46年（1971年）

4月 薬学科に薬物学及び衛生化学講座を設置した。

昭和47年（1972年）

4月 薬学科に薬品化学及び薬剤学講座を設置した。

附属脳代謝研究施設に機能生化学部門を設置した。

附属衛生検査技師学校を附属臨床検査技師学校（三年制）に改組した。

5月 医学部附属脳代謝研究施設病態生化学部門の診療科として、医学部附属病院に脳代謝精神科を配置した。

昭和48年（1973年）

3月 附属総合動物実験室棟が竣工した。

4月 大学院に薬学研究科を設置した。

附属衛生検査技師学校を廃止した。

医学部附属病院中央治療部を理学療法部と改称した。

三朝分院のリハビリテーション施設をリハビリテーション部と改称した。

昭和49年（1974年）

4月 ウイルス学講座を設置した。

附属病院に中央放射線部を設置した。

6月 RI 共同利用施設が竣工した。

昭和50年（1975年）

2月 アイソトープ研究センターが業務を開始した。

4月 製薬化学科を設置した。

7月 中央診療棟、北病棟が竣工した。

10月 附属病院に分娩部を設置した。

昭和 51 年（1976 年）

3月 基礎医学講義実習棟が竣工した。

4月 製薬化学科に製品分析学講座及び製品物理化学講座を設置した。
学校教育法の一部改正により、医学部附属の各種学校が専修学校となった。
附属病院に核医学診療室を設置した。

5月 附属病院に看護部を設置した。
薬学科及び製薬化学科が分離独立し、薬学部（薬学科 7 講座、製薬化学科 6 講座）
を設置した。

昭和 52 年（1977 年）

4月 温泉研究所の温泉医学部門を温泉内科学部門と改称した。

10月 附属病院に病理部を設置した。

昭和 53 年（1978 年） 砂田賞を設けた。

4月 附属脳代謝研究施設に発達神経科学部門を設置した。
附属病院三朝分院に看護部を設置した。

10月 附属病院三朝分院に検査部を設置した。

昭和 54 年（1979 年）

2月 臨床研究棟が竣工した。

5月 臨床講義棟、病理解剖室が竣工した。

10月 歯学部を設置した。
附属病院に救急部を設置した。

昭和 57 年（1982 年）

8月 附属動物実験施設棟が竣工した。

昭和 58 年（1983 年）

4月 附属病院に輸血部を増設した。

昭和 59 年（1984 年）

3月 MRI 断層撮影装置室が完成した。

4月 附属病院に高気圧治療部を設置した。

5月 解剖学新見嘉兵衛教授が「視床に関する研究」で学士院賞を受賞した。

昭和 60 年（1985 年） 山田賞、新見賞を設けた。

4月 岡山大学温泉研究所の改組に伴い、医学部附属環境病態研究施設を設置し、環境
病態部門、(①基礎環境病態学分野、②成人病学分野、③リハビリテーション外科学
分野)を設置した。

8月 附属病院外来診療棟が竣工した。
高原滋夫名誉教授が、「アカタラセミア」の発見、国内初の難聴学級開設で日本学士
院賞、文化功労者に選ばれた。

昭和 61 年（1986 年）

10月 岡山大学医療技術短期大学部（看護学科、診療放射線技術学科、衛生技術学科）を
併設した。

昭和 62 年（1987 年）

4月 医療技術短期大学部が第一期生を受け入れた。

麻酔科を麻酔科蘇生科と改称した。

5月 アイソトープ総合センターを設置した。
臨床検査医学講座を設置した。
附属病院に小児神経科を設置した。

医学部の沿革

12月 医療短期大学部棟が竣工した。

平成元年（1989年）

3月 附属病院管理棟・研究棟が竣工した。

附属看護学校、附属診療放射線技師学校及び附属臨床検査技師学校を廃止した。

4月 附属病院に栄養管理室を設置した。

5月 分子医化学講座を設置した。

平成2年（1990年）

3月 附属助産婦学校を廃止した。

4月 医療技術短期大学部に専攻科助産学特別専攻を設置した。

平成3年（1991年）

4月 附属癌源研究施設及び環境病態研究施設の改組・転換に伴い、附属分子細胞医学研究施設を設置し、病態遺伝子解析部門・病態分子生物学部門・細胞生物学部門・細胞工学部門・分子病態解析部門（客員研究部門）を配置した。

循環器内科学講座及び心臓血管外科学講座を設置した。

平成4年（1992年）

4月 附属脳代謝研究施設の改組・転換に伴い、神経内科学講座及び小児神経学講座並びに附属分子細胞医学研究施設神経情報学部門を設置した。

平成5年（1993年）

1月 アイソトープ総合センターが竣工した。

4月 附属病院に結石治療室を設置した。

平成6年（1994年）

6月 附属病院に循環器内科を設置した。

9月 岡山大学教養部を廃止した。

平成7年（1995年）

4月 6年一貫教育を開始した。

6月 岡山大学校友会を設立した（岡山大学校友会は7月解散）

平成8年（1996年）

4月 附属病院に冠動脈疾患治療部、物流管理センターを設置した。

5月 附属病院に心臓血管外科を設置した。

平成9年（1997年）

4月 附属病院に医療情報部を設置した。

平成10年（1998年）

10月 医療技術短期大学部の改組・転換により、看護学、放射線技術科学及び検査技術科学の3専攻からなる保健学科を設置した。

12月 医学部RⅠ研究センターを廃止し、岡山大学アイソトープ総合センターに統合した。

平成11（1999年）

4月 救急医学講座を設置した。

寄生虫学講座を生体防御医学講座と改称した。

附属病院に治験センターを設置した。

物流管理センターを物流センターに改組した。

12月 基礎研究棟第一期工事が竣工した。

附属病院に卒後臨床研修センターを設置した。

平成12年（2000年） 学士編入学制度（3年次編入）を開始した。

3月 本島分院を廃止した。

4月 形成外科学を設置した。

平成13年（2001年）

4月 医学部医学科の38講座、6部門を廃止し、4専攻9大講座制を採る大学院医歯学総合研究科を設置した。

6月 附属病院に医療安全管理部を設置した。

平成14年（2002年）

4月 三朝分院を本院に統合し、三朝医療センターを設置した。理学療法部を廃止・転換し、リハビリテーション部を設置した。
附属病院に慢性呼吸器疾患部を設置した。

8月 入院棟（第一期棟）が竣工した。

平成15年（2003年）

4月 大学院医歯学総合研究科に医歯科学専攻（修士課程）を設置した。
附属病院に遺伝子細胞治療センター、高次治療部、総合患者支援センターを設置した。
医学部附属動物実験施設を廃止・転換し、アイソトープ総合センター、遺伝子実験施設及び機器分析センターを統合して、自然生命科学研究支援センターを設置した。
大学院保健学研究科（修士課程）を設置した。

10月 医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、医学部・歯学部附属病院を設置した。
光学医療診療部を設置した。

リハビリテーション部を総合リハビリテーション部に、冠動脈疾患治療部を循環器疾患治療部に、人工腎臓室を血液浄化療法部に改称した。

12月 総合教育研究棟が竣工した。

平成16年（2004年）

4月 岡山大学は法人化され、「国立大学法人岡山大学」となった。
附属病院に臨床栄養部および感染制御部を設置した。

10月 中央材料部を廃止し、物流センターに統合した。
ME機器センターを設置した。

平成17年（2005年）

4月 大学院医歯学総合研究科と大学院自然科学研究科（薬学系）を統合し、大学院医歯薬学総合研究科を設置した（5専攻、11大講座）。
大学院医歯薬学総合研究科に医歯科学専攻（修士課程）を設置した。
創薬生命科学専攻（博士前期課程）を設置した。
大学院保健学研究科に博士後期課程を設置し、修士課程を博士前期課程とした。
附属病院に地域医療連携室を設置した。

平成18年（2006年）岡山医学同窓会の名称を鶴翔会とした。

3月 高気圧治療部を廃止した。

9月 内分泌センターを設置した。

10月 腫瘍センターを設置した。

平成19年（2007年）

1月 医療法上の病院名を岡山大学病院、岡山大学病院三朝医療センターと改称した。

9月 一般外科、小児外科を廃止した。

10月 医療機器安全管理室を設置した。

11月 入院棟（第二期棟）が竣工した。

平成20年（2008年）

1月 基礎研究棟第二期工事が竣工した。

3月 分娩部を廃止し、周産母子センターを設置した。
地域医療連携室を廃止し、総合患者支援センターに統合した。

4月 岡山大学病院に教授会を設置した。

医学部の沿革

- 6月 岡山大学病院に救急科、病理診断科を設置した。
呼吸器内科を呼吸器・アレルギー内科に、リウマチ・膠原病・アレルギー科をリウマチ・膠原病内科に改称した。
- 10月 岡山大学病院の中央検査部、中央放射線部、中央手術部、循環器疾患治療部、高次治療部をそれぞれ、検査部、放射線部、手術部、循環器疾患集中治療部、救急集中治療部に改称した。

平成21年（2009年）学士編入学制度を2年次編入に変更した。

- 2月 大学病院に小児頭蓋顔面形成センターを設置した。
- 4月 大学病院に教授ポストを新設した。
国の緊急医師確保対策に基づく「地域枠」を設置し、岡山県、広島県、兵庫県、鳥取県の地域枠を設けた。
組織上の病院名を岡山大学病院、岡山大学病院三朝医療センターに改称した。
- 6月 岡山大学病院に新医療研究開発センターを設置した。

平成22年（2010年）末丸賞を設けた。

- 9月 大学病院にジェンダーセンターを設置した。
- 11月 大学病院に小児循環器科、周術期管理センター、経営戦略支援部を設置し、麻酔部を廃止した。

平成23年（2011年）

- 1月 大学病院に臓器移植医療センターを設置した。
- 2月 大学病院に超音波診断センターを設置した。
- 3月 医学資料室・研究棟（旧生化学棟）を耐震改修した。
基礎医学講義実習棟を耐震改修した。
- 4月 大学病院に地域がん登録室を設置した。
- 5月 大学病院に運動器疼痛性疾患治療研究センターを設置した。
- 7月 大学病院の治験センターを廃止し、新医療研究開発センター治験推進部に移行した。
- 10月 大学病院の救急部および救急集中治療部を廃止し、3次救急センターを設置した。
大学病院の遺伝子・細胞治療センターを廃止し、新医療研究開発センター探索的医薬品開発室に移行した。
- 11月 大学病院に小児外科を再設置した。

平成24年（2012年）岡山医学会賞の各賞を見直し、総合医学研究奨励賞（結城賞）、がん研究奨励賞（林原・山田賞）、胸部循環研究奨励賞（砂田賞）、脳研究奨励賞（新見賞）、医学教育奨励賞（末丸賞）とした。

- 4月 岡山大学病院が災害拠点病院、高度救命救急センターに指定された。（3次救急センターを高度救命救急センターに改称した）
大学病院に頭頸部がんセンター、低侵襲治療センター、糖尿病センター、認知症疾患医療センターを設置した。
大学病院の総合診療内科を総合内科に改称した。

大学病院三朝医療センターのリハビリテーション科を廃止し入院機能を休止した。

- 6月 大学病院にIVRセンターを設置した。
- 7月 地域医療人材育成センターが竣工した。
- 9月 大学病院に小児医療センターを設置した。
- 10月 総合診療棟が竣工した。
- 11月 大学病院に小児血液・腫瘍科を設置した。

平成25年（2013年）26年度入試より一般入試（後期日程）を廃止し、推薦入試（地域枠を対象）を導入した。

- 4月 臨床遺伝子医療学分野を設置した。

- 岡山大学病院が臨床研究中核病院に選定された。
大学病院に緩和支援医療科を設置した。
- 5月 大学病院に小児麻酔科を設置した。
- 9月 地域医療人材センターおかやま（通称：マスカットキューブ）を設立した。
小児医療センター（小児科、小児外科、小児神経科、小児循環器科、小児血液・腫瘍科、小児歯科、小児麻酔科、小児放射線科）を設置した。
- 10月 大学病院に臨床工学部を設置した。
- 11月 Junko Fukutake Hall（通称：J Hall）が竣工した。
- 12月 大学病院にてんかんセンター、小児放射線科を設置した。
- 平成 26 年（2014 年）国際バカロレア入試を導入した。
- 3月 臨床研究棟を耐震改修した。
- 4月 岡山大学附属図書館・鹿田分館を耐震改修した。
大学病院にサルコマーセンター、看護研究・教育センターを設置した。
- 5月 医学資料棟（旧栄養学棟）を耐震改修した。
- 8月 大学病院に成人先天性心疾患センターを設置した。
- 9月 岡山大学が文部科学省の「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の橋渡し研究支援拠点（代表：医歯薬学総合研究科）に選定された。
- 平成 27 年（2015 年）
- 1月 医歯薬融合型教育研究拠点施設が竣工した。
診療参加型臨床実習の期間を72週とした。

2. 岡山大学の理念、目的等

1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3 岡山大学の教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

【 参 考 】

岡山大学管理学則

（大学の目的）

第10条 本学は、広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに、学術の深奥を究めて、その成果を広く社会に提供することにより、世界文化の進展に寄与することを目的とする。

岡山大学管理学則

（大学院の目的）

第53条 岡山大学大学院（以下「大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは、専門職大学院とする。

3. 医学部、医学部医学科における3つのポリシー

医学部アドミッションポリシー

【教育理念・目標】

医学部は、高度な教養、専門性、情報力、行動力および自己実現力を身につけて、未来の医学と医療をリードして担う医療人を育成します。

医学科

医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、医師・医学研究者の育成には、科学知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とします。本学科では、医の倫理に徹し、科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し、社会的信頼を得る臨床医並びに医学研究者を養成することを教育理念とします。

【入学者受入方針】

医学部では、未来の医学と医療を支える医療人にふさわしい人を求めています。

医学科では、将来の医学・医療の担い手として次のような人材を求めています。

医師に必要な使命感、豊かな人間性、高い倫理観、コミュニケーション能力を持っている人
医学・医療の進歩に対応するために必要な、幅広い基礎的学力と問題解決能力を持っている人
知的探究心が強く、とくに生命科学に対して深い関心を持っている人

医学部カリキュラムポリシー

医学部では、本学部ディプロマポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯に亘る自己実現力）を備えた医療人を育成するため、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

1年次には、外国語、リベラル・アーツ、スポーツなどの全学規模で開講される教養教育科目に加え、各学科で開講する専門基礎教育科目および専門教育科目を通じ、専門教育の基本となる知識や技術について学びます。2年次以降、各学科においてより専門性の高い専門教育科目を履修するとともに医療機関等における実習が始まり、大学教育としてのカリキュラムの成果は、国家試験の受験に十分耐え得るものとなっています。

医学部医学科カリキュラムポリシー

医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、医師・医学研究者の育成には、科学知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とします。本学科では、医の倫理に徹し、科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し、社会的信頼を得る臨床医並びに医学研究者を養成することを教育理念とします。この理念を達成するために、卒業までに身につけるべき事項についてディプロマポリシーを定め、医学教育モデ

ル・コア・カリキュラムに提示されている教育内容を包含した6年一貫教育カリキュラムを構築します。

人間性に富む豊かな教養【教養】

高い倫理観と幅広い教養、豊かな人間性を身につけることは、教養教育と専門教育の全体を通じて行われます。特に1年次の医学概論で医学の根本を教え、2年次の医学史で医学を築いてきた先人に学ばせます。さらに、4年次での生命倫理学、医事法で、倫理的・法的観点から医師に求められるものを学ばせます。

目的につながる専門【専門性】

専門的知識と実践的能力を身につけるための専門教育は、専門基礎科目と専門科目の積み上げ式となっています。1年次に人体を中心とした生命科学の基礎を学ばせ、2～3年次に正常な人体の構造と機能について分子レベルから個体レベルまでを学ばせ、また病原体や様々な病因によって引き起こされる生体の病態像、生体と薬物の反応について学習させます。4年次では、臨床医学と社会医学を履修させ、臨床実習に備えての学習を達成します。達成度については、各科目の評価に加え、全国統一基準の共用試験により知識・技能・態度が評価されます。4年次後期～6年次では、診療参加型臨床実習により医師として求められる専門性を臨床の現場を通じて身につけさせます。

効果的に活用できる情報力【情報力】

医学的情報を収集・分析し的確に判断できる能力を養い、効果的に情報発信できる能力を身につけるための科目を設定しています。1年次に情報リテラシーの基礎を学習させ、2年次では情報の数理解析方法を学ばせます。さらに実践的な演習として、2年次後期の基礎病態演習及び4年次後期の臨床病態演習で、課題について少人数チュートリアル形式での議論、知識を整理させ、学年全体で発表させます。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

高い協調性のもとに専門職業人としての指導力を発揮し、医療チームの一員として責任をもった行動ができる能力を養成します。1年次ではコミュニケーション能力の向上を図り、自ら問題点を見つけて学習する習慣を身につけられるよう、チュートリアル方式の授業を実施します。また外国語によるコミュニケーション力を身につけるため、1・2年次に教養教育の外国語科目を実施します。地域医療体験実習を通じて、地域の医療現場の重要性を理解させ、地域住民や医療従事者とのコミュニケーションを通じて、医療における社会性を身につけさせます。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

医学・医療の進歩、社会のニーズに対応して絶えず医療の質の向上に努め、生涯にわたり自己の成長を追求できる医療人を育成します。医師としての自己実現の第一歩として、1年次早期に医療・福祉の現場に臨んで、病院や介護福祉施設の実態を自ら体験させ、ボランティア精神を学ばせ、患者の傍らにいたること、共感的態度を学ばせます。3年次には、海外を含む学内外の研究室での実体験を通じ、研究マインドを養い、将来の医学・医療の現場での居場所を展望させる医学研究インターンシップを行います。6年次では、6年間の医学教育の仕上げとして選択制臨床実習により総合的な自己研鑽を行わせませ

岡山大学医学部ディプロマポリシー

- ・ **人間性に富む豊かな教養【教養】**

医療人として自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

- ・ **目的につながる専門性【専門性】**

健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、社会に貢献できる。

- ・ **効果的に活用できる情報力【情報力】**

必要に応じて自ら健康・医療に関する情報を収集・分析し、効果的に活用し、情報発信できる。

- ・ **時代と社会をリードする行動力【行動力】**

医療人としてのコミュニケーション能力を有し、医療チームの一員として責任を持った行動ができる。

- ・ **生涯に亘る自己実現力【自己実現力】**

自立した医療人として絶えず医療の質の向上に努め、生涯に亘り自己の成長を追求できる。

医学部医学科ディプロマポリシー

- ・人間性に富む豊かな教養【教養】

医療人としての高い倫理観と幅広い教養，豊かな人間性を身につけている。

- ・目的につながる専門性【専門性】

医療人として必要な専門的知識と実践的能力を身につけている。

- ・効果的に活用できる情報力【情報力】

医学的情報を収集・分析し，的確な判断を行い，効果的に情報発信できる。

- ・時代と社会をリードする行動力【行動力】

高い協調性のもとに専門職業人としての指導力を発揮し，医療チームの一員として責任をもった行動ができる。

- ・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

医学・医療の進歩，社会のニーズに対応して絶えず医療の質の向上に努め，生涯に亘り自己の成長を追求できる。